



1 標高3,400m。キルギスの首都ビシュケクから半日でこんな景色に出合えます。



2 海拔1,600mにある高山湖のイシク・クル湖（キルギス）。透明度が高く美しい青色をしており、面積は琵琶湖の約9倍という大きさです。約2週間かけて自転車で湖を一周しました。とても気持ちのいい旅でした。

3 キルギスのスカスカ渓谷。スカスカとはロシア語で「おとぎの話」を意味するそうです。赤土の異様な地形を見ることができます。

4 多くの人でにぎわっていたキルギスの首都ビシュケクにある市場「オシュ・バザール」。果物や野菜、精肉、鮮魚などあらゆるものがそろっています。市場に来ると、その土地の物価や日常風景を知ることができます。



5 キルギスは景観と多様なルートから多くのサイクリストやツーリストに支持されています。写真はフランスからのツーリスト。見知らぬ海外の地で、こうした旅人に出会えるのも楽しみの一つです。



「自転車が好きで、中学生のころから『自転車世界一周』というようなブログや旅行記を読んでいた」と話すのは酒井空知さん(20歳)。昨年7月、海外での自転車旅に挑戦しました。

国際的な視野を持つグローバル人材が求められている昨今、町でも「青年就業者海外等研修事業」を行い、(コロナ禍で3年間事業実施を見送り)グローバル人材の育成に取り組んでいます。自主的に海外生活を体験してきた酒井さんは、どのようなことを感じたのでしょうか。

——海外へ行こうと思ったのはどうしてでしょうか。

ずっと自転車が好きで、子どものころから海外を自転車で走ってみたいという思いがありました。大学を中退したので、「このタイミングで」と思ったのですが、そのときはコロナ禍で海外へ行くことができませんでした。それで、まずは北海道から沖縄まで、4カ月かけて約7000kmを自転車で走る「日本縦断の旅」をしました。

そのときに「自転車で走るなら、キルギス共和国(以下、キルギス)という国がすごくいいよ」と教えて

チャリダー／SORACHI SAKAI

# 海外自転車旅



酒井空知さん  
●2002年白糠町生まれ。陸上少年団に所属し、白糠中学校卒業後に東海大学付属札幌高等学校へ進学。その後、東京農業大学へ進学するも4カ月で退学。昨年、夢だった海外自転車旅に挑戦した。

くれた方がいて「キルギスってどこにある国?」と思って調べてみると、ヨーロッパの「トレッキング(山登りや山歩きをする人のこと)」や「サイクリスト(自転車に乗る人のこと)」からは、とても人気がある国だということを知りました。

初めて海外へ行くのなら、誰も行かないような国へ行ってみようと思いい、最初に行く国をキルギスに決めました。

昨年7月、キルギスをスタートし、中央アジアや南アジアの数カ国を自転車で周りました。キルギスは国土の9割が標高1500m以上で、そのうち6割は3000m以上という山岳国家です。最高峰だと7400mもあるような山に囲まれた国で、遊牧民も生活しており、自然が豊かで本当にすばらしいところでした。



——キルギスの後は、どこの国へ行ったのですか。

キルギスの国内を自転車でツーリング(いくつかの場所を旅行すること)した後は、その周辺の3カ国を自転車で周りました。カザフスタン共和国とウズベキスタン共和国(以下、ウズベキスタン)、タジキスタン共和国(以下、タジキスタン)の3カ国です。その後、飛行機を使ってトルコ共和国経由でパキスタン・イスラム共和国(以下、パキスタン)へ行き、インド、ネパール連邦民主共和国、カンボジア王国、タイ王国を周って今年の1月に帰国しました。

少しの間ですが、アラブ首長国連邦の中心都市ドバイにも行きました。

——初めての海外を一人で旅行することに不安はありませんでしたか。

違う国へ行くたびに不安はたくさんありましたが、それよりも好奇心の方が勝っていました。確かに日本と比べたら犯罪率が高いし、国境地帯では国境紛争などもあり、軍人に死傷者が出たというようなニュースは毎日のように耳にします。ですが、その国で暮らしている人たちがみんな狂暴なわけではないですし、居住地がすごく危険というわけでもあ



りません。私は、海外では主にテントで寝て、衣食住を全部自転車に積んで旅をしていたのですが、結果として、半分くらいは誰かの家で寝泊まりをしていました(笑)

最初の1、2回はすごくドキドキしていたのですが、ムスリム(イスラム教徒のこと)の人たちはどなたも度が過ぎるくらい優しくて、お人よし。みんな「チャイ(お茶)飲んできなよ」とか「泊まってきなよ」と声を掛けてくれました。それで、そのまま食事をごちそうになったり一週間泊めてもたったりと、本当にみんないい人たちばかりで、もちろん最低限の緊張感はありましたが、危ない目にあつたことは一度もありません。

——外国語は話せますか。

この辺の国はロシア語ですが、最初は「ハラショー(素晴らしいの意)」くらいしか分かりませんでした。持参した「ロシア語会話」という本を使っていたのですが、半年くらい経つと簡単な会話や買い物はできるようになり、ちょっとロシア語で話しただけでも「上手だね」と褒めてくれて(笑)。今では英語よりもロシア語の方が話せます(笑)。